



みらいっうしん

12月号

2019年12月1日
田園調布学園大学
みらいこども園
園長 勝浦 芳子



*:

主体的な遊びから学びに向かう力へ

時折の寒さは感じるものの例年になく温かな師走を迎えておりますが、インフルエンザなどの感染症も少しずつ流行りだしてきていますので、うがい手洗いを忘れずに、体調管理をしてください。

子ども達は、普段と変わらない様子で好きな遊びに夢中になり、友達と関わる楽しさや新しい発見をしながら能動的に園生活を送っています。また、会話も多くなり言葉で伝え合う喜びも味わっている様子も見られ、一人一人の成長を強く感じます。

さて先日、収穫したサツマイモを蒸かし、にじ組さんが、テラスに『お芋レストラン』をオープンしてくれました。お店も手作りで、レインボー柄で素敵なお店でした。「いらっしやい！いらっしやい！美味しいお芋だよ！」とにじ組さんが声をかけると、それまで遊んでいた子ども達が、一瞬にして「なにになに？」とお店の周りに集まってきました。学年ごとにお芋をいただく時間は決まっていたのですが、視線は、「まだかなまだかな？」とじーっとお店の方を見つめていました。1、2歳児のお子さんの中には、手を出すとお芋をくれるんだということを学んだようで、担任が心配するほど何回も何回もお芋をもらって食べていました。(笑) 主催者のにじ組さんも、一生懸命おかわりのお芋を運ぶ人、呼び込む人、渡す人と、役割を決めワンチームの精神で、みんなが1つの活動を盛り立てている姿が印象的でした。特に学年に合わせて、大きさを考えたり、優しく声をかけたり、思いやりの気持ちも育っていることが分かり嬉しく思いました。その後、学年別に幼児クラスは、サツマイモを使って『きらきらクッキング』が行われ、にじ組は、スイートポテト、そら組は、おやき、ほし組は、茶巾芋を真剣に作っていました。ここでも友達同士、「こうやった方が、美味しくできるよ」「僕ね、作り方知ってるよ」「お家で、ママと作ったから私に任せて」「へー〇ちゃんすごいね」などと会話が弾み、1つの活動の中にも、それぞれの経験によって受け入れ方は違いますが、周囲の動きや話を聞いて、互いに学び合う環境があることを痛感しました。また、後半には、『みらいランド』が開かれ、にじ組さんとそら組さんが、思い思いのお店を作り、乳児さんとほし組さんをご招待して、『お買い物ごっこ』を楽しみました。今回は、『回転すし・スシロー』『アクセサリー』『お弁当』『ロボット』『ゲーム』『アイス』『アイドルショー』など15種類位のお店が並び、子ども達の心のボルテージは、最高値に達していて、満面の笑顔で楽しんでいました。さらに、にじ組さんの作品のクオリティーの高さに驚くものもあり、ものを見る力がしっかり身につけていることや感性の豊かさに感心しました。対話に関しても、お互いを尊重し、年長児が、年少児を優しくサポートする姿も見られ、安心して言葉を交わしている姿もあり、ほのぼのとした場面が沢山ありました。イートコーナーでも本物を食べているかのような表情がとても素敵で、こちらまで幸せな気分になりました。日頃から、主体的に遊んで培った知恵や創造力などが、活動にしっかり生かされ、子ども達の成長を感じた2日間でした。そして、これこそが、学びに向かう力なのだと思確信しました。

輝かしい未来、人が美しく心を寄せ合い明日への希望を咲かせる令和元年の年の瀬に願いを込めて、今後も主体的な遊びを大切に、生きた学びができるように私たち保育者もワンチームの精神で、環境作りに気を配っていきたいと思います。

